

令和7年度 事業計画書

Project report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要	… 2
建学の精神	
教育方針	
設置する学校	
令和 7 年度の主要な事業計画	
高田短期大学	… 3～8
I、中・長期目標	
II、令和 7 年度重点目標	
III、教育・研究活動	
IV、地域社会貢献事業・公開講座など	
仏教教育研究センター	
育児文化研究センター	
介護福祉研究センター	
V、令和7年度 短期大学 施設設備整備計画	
高田中・高等学校	… 9～16
1、建学の精神に基づいた教育推進事業	
2、生徒募集推進事業	
3、探究活動推進事業	
4、SSH推進事業	
5、ユネスコスクール推進事業	
6、キャリア教育推進事業	
7、生徒会活動・部活動の推進	
8、国際理解教育推進事業	
9、危機管理・安全教育への取り組みの推進事業	
10、教職員資質向上への取り組み事業	
11、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業	
12、令和7年度 中・高等学校 施設設備整備計画	

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。

中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

設置する学校

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町2843

高田短期大学 中・長期目標と令和7年度重点目標

I. 中・長期目標（令和5年度～令和9年度）

1. 建学の精神具現化・実践とその涵養
 - 共通教養科目「人生と仏教」で客観的知識を学修し、仏教行事を通じて主体的に理解を深める。また、学内の宗教的情操教育の環境を整えていく。
2. 学生募集と大学運営
 - 各学科募集定員の充足と確保
 - 少子化と四年制大学進学志向による短期大学離れの傾向に伴う受験生の激減に対する戦略
 - 魅力と活気のある大学運営とその可視化と発信
 - 教員の研究による資質向上と学生の学力三要素による資質向上
 - 子ども学科・キャリア育成学科オフィスワークコースにおける公務員合格者の増加
 - キャリア育成学科介護福祉コースにおける介護福祉士の合格者の増加
 - 外国人留学生の日本語能力試験N2の合格者の増加
 - 高大教育交流の推進
3. 時代・社会の変化に即応した教育システムの改革・改善
 - 教育の理念・目的・目標等の不断の見直し・検討
 - 「三つのポリシー」の不断の見直し・検討とそれに基づく教育の実施
 - 学修成果の具体的な把握・評価方法、より効果的な公示方法等の検討
 - I Rの推進
 - 学修環境の不断の改善
4. エンロールメント・マネジメントの促進（総合的な学生支援体制の構築）と教職員の意識改革
 - 学生支援に視座をおき、教員と職員が協力し合い（教職協働）、切磋琢磨し合う教育環境の構築
 - 縦割りに終始しがちな各部署の業務に横のつながりをもたせ、各部署の情報を共有しやすくする、学生の立場に立ったトータルなサービスの遂行
5. ニーズに対応し、各学科・コースの特色を反映した実践的、体験的な地域連携の充実
6. 自然保育とSDGsに向けての周辺環境（山林）の有効活用

II. 令和7年度重点目標

1. 学生募集のあり方の検討と募集定員の確保
 - 学生募集戦略の不断の検討
 - 高田高校との連携強化
 - 地域の高等学校との連携強化
2. 「教学マネジメント指針」（令和2年1月22日 中央教育審議会大学分科会）を参考にした教学マネジメントの推進
 - 「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」に基づく教育の実施
 - ・ 「シラバス」と「カリキュラム・マップ」に基づく授業の展開
 - ・ 「DP到達度評価ルーブリック」による学生の自己評価とI Rの実施

- 「アセスメント・ポリシー」の着実な遂行
- ICTを活用した教育の推進（「AAA」の積極的利用）
 - ・「アクティブラーニング型授業」の推進
 - ・学修成果の可視化（ルーブリック・学修ポートフォリオ等）と学生への提示の推進
- 3. 全教職員一丸となつてのきめ細かな学生支援の充実
 - 学修及び短大生活の支援
 - 障害のある学生など、特別な支援を要する学生への全学的な支援体制の確立
 - キャリア支援（就職支援）
 - ・就労意欲の喚起と多様化する学生への支援の充実
 - ・公務員試験対策の充実とその成果の発信
 - 外国人留学生への支援
 - ・日本語能力試験対策の充実
- 4. 保育の魅力の発信
- 5. 自然保育の充実
- 6. 地域連携プロジェクトの推進
- 7. AI教育の構築への検討
- 8. 介護福祉士国家試験の全員合格

III. 教育・研究活動

(1) 学士力向上を目指した改善活動（学務委員会、教務課）

学士課程で身に付けるべき学修成果（「学士力」）の達成を目指します。

学生が主体的・自律的に「ディプロマ・ポリシー」に定めた「到達目標（学修成果）」に到達できるよう、履修マップ・科目ナンバリングの活用等により授業の質的向上を図るとともに、学生自らが学修成果を自己点検・評価する取組が可能となる「高等教育における内部質保証システム」の確立を推進します。

また、改善を加えた学修支援システム「Active Academy Advance」の更なる利活用によって、学生がより能動的に学士力向上にアプローチできる運用方法の確立を目指します。

(2) 主体性・協調性を育む短大生活支援（学務委員会、学生課等事務局）

高短生としての2年間で心身ともに健やかなキャンパスライフとなるよう、全教職員が一丸となり、多方面からの支援を行う取り組みを進めます。明るい挨拶や礼儀・マナーを大切にする中で、学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築を目指します。

学生の自主的かつ主体的な活動をより強力にバックアップし、学生自治会を中心として、学内行事及びクラブ・サークル活動の更なる活発化に努めるとともに、部員と顧問間のコミュニケーションがより一層深まるよう支援します。

また、多様化する学生の困りごとに対応するため令和6年度より学生相談室に臨床心理士の資格を有する常勤職員を配置しました。学生相談室の支援内容充実及び他部署との連携強化等により、学生支援の更なる充実を図ります。

さらに、外国人留学生が卒業後、地域社会で活躍できるよう日本語能力の向上をはじめ、様々な知識経験の修得ができるよう外国人留学生支援室を中心として支援の充実を図ります。

(3) キャリア教育の充実（キャリア支援委員会、キャリア支援センター）

教職協働をより一層進め、学生一人ひとりに応じたきめ細かなキャリア支援に努めます。そのために、キャリア支援委員会での協議や委員会に向けての学科別・コース別事前ミーティング、学修支援システム「Active Academy Advance」の活用により、教職員間の情報共有と意思疎通を図ります。

また、就職活動の早期化や公務員試験に対応するため、勤労意欲の喚起と計画的な支援を進めます。そのため、「就職講座」、「キャリアスタディ」、「キャリアガイダンスII」、「公務員講座」等の取組をキャリア支援委員会で検証するほか、公務員希望者対象のガイダンスを充実させるなど、継続的に工夫・改善を図ります。

さらに、多様化する学生に対して、学生支援委員会や学生相談室と協力し、保護者*や外部関係機関等との連携も視野に入れて、適切な支援に努めます。委託訓練生に対しては、多様なライフステージに対応した就職先の情報収集に努め、適切に相談に応じられるよう支援に努めます。

*成人に達したのちにおいても、保証人の立場にある方を便宜上「保護者」と称します。

(4) 学生募集と高大接続の推進（入試広報委員会、入試広報課）

学生募集に関しては、各学科の定員確保を最優先課題として取り組みます。そのため、高校生や保護者等が求める情報を的確に把握し、SNSを始めとする適切な媒体により時宜を得た発信を行います。また、高校生が早期から志望校を絞り込む傾向にあることから、早い段階で高校生と直接面談できるよう、業者主催のガイダンスや特別（体験・模擬）授業、その他見学会などの機会を極力増やしていきます。オープンキャンパスについても、高校生や保護者の視点に立った、学生を主体としたものにするなど、内容の充実を図ります。

高大教育交流事業については、連携協定校に、進路ガイダンスだけでなく探究活動や進路学習など、様々な学びについて提案や連携、協力をしていきます。特に、高田高校との連携強化に重点的に取り組みます。また、高校訪問についても、進路指導部だけでなく専門学科や学年との連携を密にして積極的に情報交流を図ります。

IV. 地域社会貢献事業・公開講座など

仏教教育研究センター

仏教教育研究センターの令和7年度の事業は、公開講座、「高田本山寄附講座」として平成24年度から開講した仏教基礎講座と平成25年度から開講した仏教専門講座、そして研究会および寄贈図書の整理などを継続して開催します。

(1) 公開講座の開催

本年度は、当センター研究員である中川結幾氏と報徳園園長である千草篤麿氏が講師を務め、真宗高田派本山高田会館ホールにおいて年2回、前期後期に分けて仏教教育研究センター公開講座を次のとおり計画しています。

○第1回（前期）

日 時：6月12日（木）13時30分～15時30分
講 師：中川 結幾 氏（当センター研究員、高田中・高等学校非常勤講師）
テーマ：未 定
内 容：未 定
会 場：真宗高田派本山高田会館ホール

○第2回（後期）

日 時：10月8日（水）13時30分～15時30分
講 師：千草 篤麿 氏（社会福祉法人高田真善会報徳園園長）
テーマ：未 定
内 容：未 定
会 場：真宗高田派本山高田会館ホール

(2) 高田本山寄附講座の開催

○仏教基礎講座 8月18日（月）～22日（金）

仏 教 学	栗原 廣海	研究員	（高田短期大学名誉教授）
真 宗 学	松山 智道	研究員	（高田短期大学特任講師）
仏 教 史	金信 昌樹	研究員	（真宗高田派善昌寺住職）
真 宗 史	清水谷正尊	研究員	（高田短期大学学長）
高田の歴史と法宝物	佐波 真	研究員	（高田中・高等学校非常勤講師）

○仏教専門講座 4月25日（金）9：00～

真宗学概説	松山 智道	研究員	（高田短期大学特任講師）
真宗史概説	北島 恒陽	研究員	（真宗高田派正泉寺住職）
真宗学講読Ⅱ	中川 結幾	研究員	（高田中高等学校非常勤講師）
真宗教学史	島 義恵	研究員	（真宗高田派聖洞寺住職）
仏教学講読Ⅱ	藤田 正知	研究員	（高田中・高等学校教諭）

(3) 研究会の開催

研究テーマ：「国宝・親鸞聖人筆『西方指南抄』の研究」

真宗の開祖である親鸞聖人が著された『西方指南抄』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。現在は、翻刻作業を進めています。

育児文化研究センター

行政や地域子育て支援団体など関係機関との連携による、子育て支援活動の充実および育児文化に関する研究活動の充実と発信に努めます。また、学生の資質向上のための支援を行います。

(1) 研究活動

○定例研究会

第69回 5月14日(水) 開催予定

○グループ研究会活動 各グループ年間6～8回 開催予定

グループ① 子育て支援について

グループ② おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて

グループ③ 自然保育とこれからの保育者育成

グループ④ 発達障がいのある子どもへの支援について

(2) 地域子育て支援事業

○地域開放事業 子育て支援ひろば「おやこひろば たかたん」の実施

毎週月曜日・第1第3木曜日 10:00～12:00 年間70日程度 開催予定

○子育て講座(予約制)の実施

ひろば開催日に月1回 年間9回 開催予定

○子育て相談(予約制)の実施

「発達」の専門教員により月2回 開催日設定

(3) 地域連携子育て支援事業

○津市委託事業「子育て家庭事業」企画・運営実施予定

○みえ次世代育成応援ネットワーク事業への運営委員参画・事業参加

ありがとうの一行詩コンクール 等

○地域連携自然保育推進事業

(4) 学生支援事業

○地域保育関連の学生ボランティア活動支援

○おやこひろば保育ボランティア

○おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

○授業「たかたん保育特別演習(子育て支援)」

(5) 会議

○運営委員会 学内運営委員会は月1回 開催予定

○センター会議(年1回) 5月14日(水) 開催予定

○ひろば運営会議 月1回 開催予定

介護福祉研究センター

介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域社会への貢献、連携をめざし、地域福祉に寄与するために令和7年度は以下の事業を計画しています。

(1) 介護福祉セミナーの開催

○地域の方や卒業生を対象とした講座を予定

日 時：令和7年11月～12月の間の1日 13：30～15：30

テーマ：認知症の基礎知識 & 愛風さんの音楽DEリフレッシュ

講 師：上山 由紀子(本学専任教員)

(2) 介護職員キャリアアップ講座の開催

○介護職員を対象とした講座の開催

会場は地域の福祉施設や本学とし、施設の介護職員に参加を呼びかけます。

卒業生を中心とする「研究初級講座」の開催

(3) 定例研究会の開催（場所：高田短期大学 介護福祉研究センター）

○第58回定例研究会 6月開催予定 ○第59回定例研究会 9月開催予定

○第60回定例研究会 12月開催予定 ○第61回定例研究会 2月開催予定

(4) 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

○一身田桜町地区との連携事業（5月）他

(5) 施設との交流事業

高田短期大学介護福祉コース学生ボランティアを中心に行います。

施設での「足浴」を実施

(6) センター学生ボランティア組織「ふれんどえいむ」やゼミ等における学生ボランティア強化

○介護福祉コース学生に呼びかけ、本センター事業等にボランティア協力しやすい環境を整えます。

認知症サポーター養成講座

6月14日（土）「認知症予防の日」（図書館の飾りつけと認知症の本の紹介等）

(7) 研究紀要の刊行

○高田短期大学「介護・福祉研究」第12号を3月に発刊予定

(8) 他団体との連携

○全国障害者問題研究会との連携 ○三重県文化会館との連携 ○津市一身田青年団との連携

(9) 会議

○運営委員会 場所：本学介護福祉研究センター 月1回開催

○センター会議 場所：本学介護福祉研究センター 年2回（前期6月、後期12月）

令和7年度 短期大学 設備整備の事業計画

(単位：円)

事業名	事業費	実施時期	備考
LED化工事	未定	令和7年8月～9月（予定）	3/7 現場説明、4/3 入札
教職員PC入替	13,124,000	令和7年8月～9月（予定）	Windows アップデートに伴う入替

高田中・高等学校 令和7年度主な事業計画

1、建学の精神に基づいた教育推進事業

仏教教育に基づく宗教的情操の涵養をめざし、週1時間の仏教の授業や月々の本山参詣、仏教講話などを実施することにより、豊かな人格形成と心の成長をうながし、生徒ひとり一人が命の尊さを深く自覚することに努めてまいります。

[仏教行事の予定]

4月15日(火)	本山参詣	11月12日(水)	本山参詣
5月21日(水)	宗祖降誕会	12月9日(火)	本山参詣
6月20日(金)	花まつり	令和8年1月9日(金)	報恩講
7月10日(木)	本山参詣	令和8年2月16日(月)	本山参詣
9月19日(金)	追弔会	令和8年3月10日(火)	本山参詣
10月2日(木)	本山参詣		

2、生徒募集推進事業

世間では少子化や高校授業料無償化への動きが見られる中、本校でも受験者数減少の傾向が見受けられ、今後はいかに受験生やその保護者の方から安心と信頼を得て選ばれる学校にしていくかが重要となっています。

高校入試では、各中学校訪問や学校説明会を本校にて実施し、中学入試では、県内生の受験者数が減少している状況を鑑み、これまで行ってきた「入試説明会」「学びのひろば」に加え、幅広い学年の小学生を対象とした見学会や説明会を本校にて実施します。また、中高ともに、ホームページやSNS、テレビ等のメディアを活用し学校紹介を行うなど、外部への情報提供を積極的に展開し、受験生に対し、在校生が伸び伸びと学業、部活動などに精進、活躍している姿を可視化する広報活動を展開していきます。

[高校入試説明会・見学会の予定]

行事名	日程	対象
学校見学会	8月23日(土)	中学校3年生と各保護者1名
個別見学会①	9月20日(土)	中学校3年生と各保護者1名
個別見学会②	10月4日(土)	中学校3年生と各保護者1名
個別見学会③	11月15日(土)	中学校3年生と各保護者1名

[中学入試説明会・見学会の予定]

行事名	日程	対象
中学校説明会	5月10日(土)	小学校3年生以上と各保護者1名
中学校見学会①	6月21日(土)	小学生と各保護者1名
中学校見学会②	8月7日(木)	小学生と各保護者1名
第1回学びのひろば	8月24日(日)	小学生3年生～5年生と各保護者1名
中学校見学会③	8月30日(土)	小学生と各保護者1名
中学校入試説明会	9月23日(火・祝)	小学校6年生と各保護者1名
中学校入試説明会①	10月4日(土)	小学校6年生と各保護者1名
中学校入試説明会②	11月1日(土)	小学校6年生と各保護者1名
中学校入試説明会③	11月15日(土)	小学校6年生と各保護者1名
第2回学びのひろば	2月11日(水・祝)	小学生3年生～5年生と各保護者1名

3、探究活動推進事業

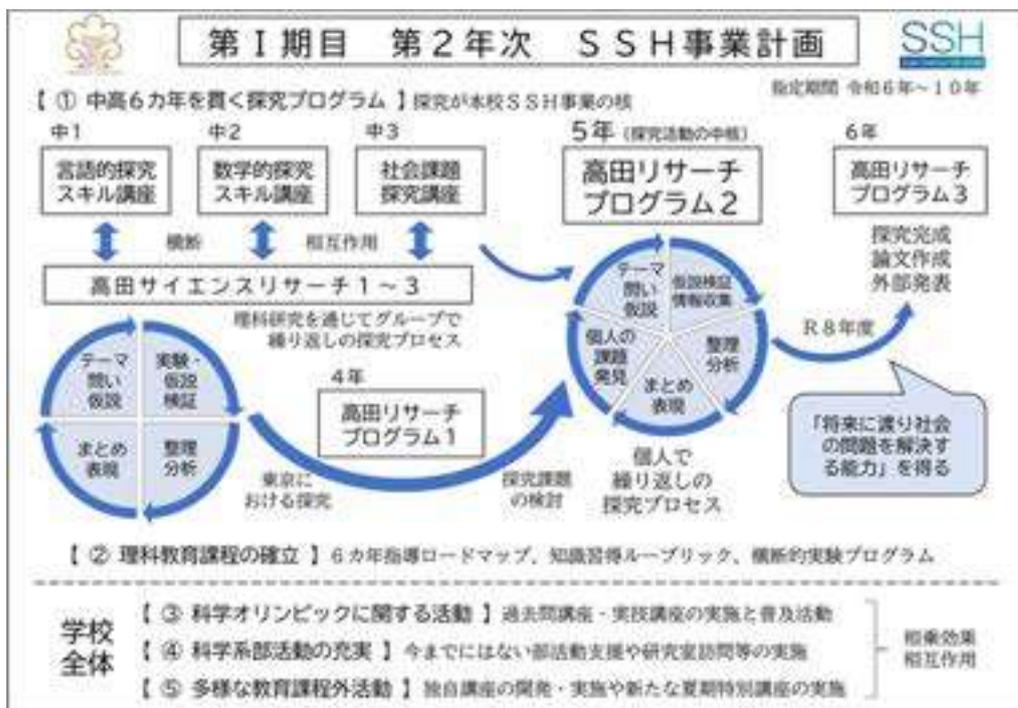
3年制、6年制ともに、本格的な探究活動を行っていきます。

3年制では、「世界と社会を変えるために“知る”“考える”“行動する”」をテーマに、1年次は模擬探究とグループ探究を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、主体的・計画的に活動することで、課題発見力及び解決力、主体性や計画性を養います。2年次は個人探究とその発表を通して、地域や社会に関心を持ち、自らの問題として課題を立て、調査や表現をすることで、情報収集力、分析力、思考力、表現力を身につけます。3年次は、個人研究をレポートにまとめ社会に発信することで、主体的・協働的に取り組み、集団での自己の役割と責任を見出し、互いの良さを見出しながら、よりよい社会の実現を目指すことで、積極性、協働性、コミュニケーション力を培います。



6年制では、中高6か年を貫く探究プログラムを実施します。中学校では、協働性、多面的な視野、科学的探究心を育成し、高校では、主体性、創造性、論理的思考力、問題解決能力を育成することを学校目標としています。そのため、中学ではカリキュラムの再編を行いました。内容につきましては、「4、SSH推進事業①中高6か年を貫く探究プログラム」をご覧ください。

4、SSH推進事業



① 中高6カ年を貫く探究プログラム

本年度は、中学校1年生から高等学校5年生を対象に探究プログラムを実施します。1年生では、ディベートの実施、比叡山校外宿泊学習に伴う調べ学習、シンキングツールの使用などを通じて、言語的探究スキルを養います。2年生では、データの分析方法や活用方法を学びながら2度のアンケート調査を行い、実践を通じて数学的探究スキルを養います。3年生では、SDGsや今ある社会課題と向き合いながら、課題発見能力を養います。また、1～3年生を通じて、段階的に発展させながら、理科研究を繰り返し行います。4年生では、東京校外宿泊学習における探究を通じて探究スキルをさらに向上させ、4年生後半からは5年生で行う個人探究の計画を始めます。5年生では、学年を10程度のゼミに分割し、少人数ゼミによる個人課題探究活動を行います。また、探究の成果は、外部の発表会等へも出展していく予定で、昨年度はみえ探究フォーラムへ3年生から2組の出展がありました。

② 理科教育課程の確立

中高6年間で学ぶ理科の内容を、分野や学年を適切に横断しながら内容を接続することで、より効果的な教育効果を得られるという仮説のもと、6カ年指導ロードマップを元にして知識習得ルーブリックを作成・活用して学習活動を進めていきます。知識習得ルーブリックは、考査ごとにどの知識をどこまで身につければよいのかを示した表で、日々の予習・復習や主体的・自律的な学習を行い、振り返りをして自己分析を促すためのツールです。

③ 科学オリンピックに関する活動

④ 科学系部活動の充実

⑤ 多様な教育課程外活動

上記の事業計画図の通り、学校全体で実施することを目標にして、多様な教育課程外の活動を計画・実施していきます。

5、ユネスコスクール推進事業

2017年度から温室効果ガスの一つである二酸化炭素の濃度に注目した地球温暖化防止をテーマとする産学連携の環境教育を行ってきました。そして、その成果をお認めいただき、令和4年11月に「ユネスコスクール」への認定をいただきました。それを機に、本校では、「ESD：持続可能な開発のための教育」を実践し、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育を軸に、日々教育活動を行なって参りました。そして令和6年度には我々の取り組みを評価して頂き、環境大臣より「令和6年度気候変動アクション環境大臣表彰」及び「ESD実践動画100選認定」をW受賞させて頂きました。

令和7年度に私たちが主として取り組む活動目標は、「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする（カーボンニュートラル）脱炭素社会の実現を目指す」と国が宣言したことを受け、「カーボンニュートラルをいち早く学校内で実現させる」ということです。それを可能にするためにCO₂排出量削減策として、省エネ活動・フードロス問題（ゴミ問題削減）・エコキャップ回収活動（リサイクル推進活動）をCO₂吸収量増加策として、校内緑化活動・さらには、本校の母体である国宝真宗高田派本山「専修寺」の森を環境省が目標と掲げる30by30の「自然共生サイト」として登録する活動を現在計画中です。この活動実践により校内でのCO₂排出量とCO₂吸収量の差ZER

〇を目指す「ZEROカーボンスクール構想」を全校生徒に啓発していきたいと考えています。

5月には環境教育で学术交流を行っている台湾（台中市）の大同高校の生徒30名・教員2名が教育交流目的で本校に来校予定、6月には、台湾高雄市で開催される環境教育シンポジウムに本校生徒3名・教員1名が参加予定です。さらには、昨年12月に新たに学术交流提携を交わしたネパール（ルンビニ市）のドルガダッタ中等学校とも「ZEROカーボンスクール構想」に向けた取り組みを伴って行く計画です。

[2025ユネスコスクール]

2017年度から地球温暖化防止をテーマとする環境教育（今年度で9年目）を行ってきました。



成果

- ①令和4年11月に「ユネスコスクール」への認定をいただきました。
これを機に、「ESD：持続可能な開発のための教育」を実践。
- ②環境大臣より
 - ・令和6年度気候変動アクション環境大臣表彰
 - ・ESD実践動画100選認定 をW受賞。

今年度以降の探究活動

「2025年までに（カーボンニュートラル）脱炭素社会の実現を目指す」との国の宣言を受けて



仮説 「カーボンニュートラルをいち早く学校内で実現させる」ことは可能か？

実践 実現のために出来ることは何か？

CO2排出量削減策

- ・省エネ活動
- ・フードロス問題
（ゴミ問題削減）
- ・エコキャップ回収活動
（リサイクル推進活動）

CO2吸収量増加策

- ・校内緑化活動
- ・国宝高田本山「専修寺」の
森環境省30by30
「自然共生サイト」登録申請
緑の保全活動

両者を釣り合わせる努力

今年度の国際交流活動

- ・5月 環境教育学术交流校の台湾（台中市）の大同高校 生徒30名・教員2名が教育交流目的で本校に来校予定。
- ・6月 台湾高雄市で開催される環境教育シンポジウムに本校生徒3名・教員1名が参加。
- ・随時 昨年12月に新たに学术交流提携を交わしたネパール（ルンビニ市）のドルガダッタ中等学校とも「ZEROカーボンスクール構想」に向けた取り組みを行う計画。

6、キャリア教育推進事業

現代社会の多様性に即応すべく、コミュニケーション能力や自己発信能力など社会人として働くうえで必要とされる能力の修得に努めるとともに、デジタル技術の革新による社会の激しい変化に対応し、生き抜くために主体的に自己の進路選択ができるように教育活動を展開していきます。生徒それぞれの内面の成長・発達を促し、漠然と抱えている夢や希望を明確にして将来の人生プランへと繋がるように、学ぶことや働くことへの意欲や目的意識を醸成し、将来社会人としての自己の適正・能力をよりよく生かしていく基盤を構築すべく、多種、多面的な事業の推進・発展をはかります。

[令和7年度 医学部進学についての行事]

日程	講座	講師	対象	場所
4月19日(土)	医学部進学ガイダンス	メディカルラボ	新6・5年保護者・生徒	視聴覚教室
5月23日(金)	医療講座①	三重大学 奥川先生	6年生	視聴覚教室
6月3日(火)	医療講座②	三重中央医療センター 信岡先生	6年生	視聴覚教室
7月7日(月)	医療講座③ 2025年度医学部入試のふり返りと現状	メディカルラボ	6年生	視聴覚教室
9月3日(水)	医療講座④ 志望理由書の書き方	メディカルラボ	6年生・保護者	視聴覚教室
11月18日(火)	医療講座⑤ 面接練習	メディカルラボ	6年生	視聴覚教室
1月29日(木)	医療講座⑥ 面接練習(三重大学医学部)	メディカルラボ	6年生	視聴覚教室

[令和7年度 進学ガイダンス計画]

日程	ガイダンス	主催	対象	場所
5月16日(金)	大学個別相談会	キッズコーポレーション	高校3年生	教室
12月18日(木)	大学個別相談会	さんぼう	高校2年生	教室
3月16日(月)	分野別進学相談会	ライセンスアカデミー	高校1年生	教室

[令和7年度 高大連携事業計画]

三重大学には、現在、以下の学部にて講座のお願いをしています。この他の大学として、高田短期大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学大学、豊田工業大学にお願いする予定です。

日程	講座	講師
7月上旬	三重大学工学部説明会	三重大学工学部
7月上旬	医学・医療を支える解剖生理学	三重大学教育学部
8月	リスニングの極意	三重大学教育学部
8月	物理基礎実験(磁石関連)	三重大学工学部
8月	レゴを使ったロボットプログラミング	三重大学工学部
8月	PCRによるDNAの増幅実験	三重大学生物資源学部
8月	三重大学農場実習	三重大学生物資源学部
8月	光るタンパク質を調べよう	三重大学生物資源学部

7、生徒会活動・部活動の推進

生徒会活動において、中高とも生徒会が中心となって、学校の諸行事の企画を計画から実行へと展開することを通して、各生徒との連携を深め、友情の輪を広げるとともに、ひとり一人の自主性・公共性・協調性を高めることを目標に、活気ある学校づくりを目指していきます。高校の生徒会内に執行部の外に企画運営委員会、生活委員会、環境委員会、安全推進委員会を設置し、生徒の主体的な活動を展開しています。また、いじめ反対の意思表示をするピンクシャツ運動も生徒会主体で行って

ます。

部活動に関しては、学校としては教育活動の一環として、できる限りバックアップする必要があると考えています。部活動は生徒ひとり一人の興味や関心によって自由意志で参加し、心身の健康増進や豊かな教養を養い、自主的な集団生活を行うことを目的としています。また、自身の体の育成、高い技術を習得することを目指し継続的に部活動を行うことは、人間形成にも大きな影響を与え、より楽しく豊かな学校生活を送ることができるものと考えられます。

施設の整備や、備品の補充など、また本年度より外部指導員の拡充をはかり、満足感ある活動の中で技術向上を促し、先は高田中・高等学校の名を全国に広められるよう努めてまいります。また、優秀な成績を収めた部活動においては学校内外に公表し文武両立を目指す幅広い学校活動を示していきたいと思っております。文化系、運動系それぞれの部活動で優秀な生徒の育成をめざしてまいります。

8、国際理解教育推進事業

昨年度新たに導入したターム留学プログラムはニュージーランドの学校に正規留学として在籍し、現地校の授業を受けるもので、語学力向上だけでなく、問題解決能力やコンピテンシーを育みグローバル社会への対応力を培うと共に、帰国後に学年のリーダー的存在として学校全体を活性化していく人材の養成を目的とします。

オーストラリアのセントモニカ校・パレード校とのオーストラリア交換留学、および例年7月に実施しているイギリス語学研修などの短期留学プログラムも、生徒の国際理解と国際協力への意識を高めるため引き続き実施をします。また、現地での研修の他に、姉妹校であるオーストラリア・セントモニカ校とのオンライン交流会や日本の大学・大学院に通う留学生を招いて種々のテーマでディスカッションやプレゼンテーションを行うグローバル・スタディ・プログラムを校内で実施し、英語の語学力や英語での発表力を強化する取り組みも積極的に行います。

さらに、すらら等を利用した基本的な英語力、英会話力の強化に努めるとともに、イングリッシュキャンプ、イングリッシュフェスティバルの開催、各種コンテスト・コンクールへの参加、教科横断型の授業、Web学習サービスなど、様々な角度から国際理解教育を推進してまいります。

〔国際理解教育水推進事業計画（案）〕

期間	名称	対象学年	人数
7月21日（月）～8月7日（木）	イギリス語学研修	中3・5年・高II・高III	約20名
夏休み中	姉妹校とのオンライン交流会	中3以上	約40名
9月13日（土）～9月22日（月）	オーストラリア交換留学受け入れ	高1・4年	13名
12月下旬	グローバル・スタディーズ・プログラム	中3・4年・5年	約30名
令和8年1月下旬～3月下旬	ニュージーランドターム留学	中3・5年・高II・高III	数名
令和8年3月中旬～下旬	オーストラリア交換留学訪問	高1・4年	約15名

9、危機管理・安全教育への取り組みの推進事業

自然災害の発生に対して危機意識と防災意識を高め、まず自己の命を守り、次に身近な人を助け、さらには地域に貢献できる防災教育に取り組んでいきます。

年度当初に避難訓練、秋に震度6以上の大規模地震とそれに伴う火災を想定した消火訓練と避難訓練を行います。これらの訓練は地域住民や消防署等と協力して安全防護訓練、応急救護訓練及び地震

想定訓練を含む総合訓練として実施する予定です。

防災用の備蓄品として日本非常食推進機構の「白い小箱」を入学時に購入します。防災学習と同時に障がい者への理解を学ぶなど、より広い学びを含んだ防災啓発活動に取り組みます。卒業時には無駄のない循環防災備蓄「白い小箱運動」の一環として、事業所や海外に寄贈します。

SNS等によるトラブルが例年発生しています。サイバー犯罪に巻き込まれないように生徒のみならず保護者に対しても常日頃から安全教育への意識を高めるとともに、犯罪防止の徹底に努めます。SNSやLINEでのトラブルを未然に防ぐため、利用方法についての講演会の開催を予定しています。

交通安全については、交通ルールの理解と遵守、道路交通法の理解、信号・標識の意味と遵守、交通マナーの習得、安全意識の向上を目的とした教育と専門家による体験型講習会を実施します。ヘルメット着用推進の教育も引続きJAFの協力のもと行っていきます。また、万一のために自転車保険に加入することも推奨します。

10、教職員資質向上への取り組み事業

新任教職員に対して、組織の理解と帰属意識の醸成から13項目に分けて校内新任研修を行います。その中で建学の精神を学び、学苑規定や学則を理解することで本校職員としての資質向上に努めます。また、人権教育、特別支援の考え方、生徒指導の在り方、教務業務の把握、危機管理の方法等を理解することで学校の全体像を把握し、業務の内容、組織構造などを理解することで、組織の一員としての自覚を促します。

[初任者研修 年間計画表 (案)]

	研修テーマ	獲得できるスキル・目的	実施日時	担当者
0	デバイス設定、アカウント登録	各ツールへのログインができる	4月 2日(水) 14:00~15:00	ICT担当
1	高田の歴史と建学の精神について	グランドデザインの理解	4月 8日(火) 14:40~15:30	学校長
2	コンプライアンス・学校の危機管理	服務規程と教育法規の理解 危機管理の理解	4月 9日(水) 15:40~16:30	教頭
3	学校法人の規定について	規定集の認知	4月10日(木) 15:40~16:30	事務局長
4	ICT教育活用	教育活動における ICT活用シーンの理解	4月14日(月) 15:40~16:30	研修担当
5	ALやAIを用いた授業デザイン	授業計画をデザインできる	4月15日(火) 15:40~16:30	研修担当
6	生徒指導	指導基準の理解	4月17日(木) 16:30~17:20	生徒指導部長
7	教職の実務 中・高の教務	教務内規の理解	4月18日(金) 16:30~17:20	教務部長
8	進路指導	進路指導の理解	4月21日(月) 16:30~17:20	進路指導部長
9	探究活動における教員の役割	総探の理解、 伴走者としての役割の理解	4月22日(火) 16:30~17:20	研修担当
10	定期考査での学習評価	考査における 評価のつけかたの理解	4月23日(水) 16:30~17:20	研修担当
11	人権教育推進	人権活動の理解	4月24日(木) 16:30~17:20	人権教育担当
12	特別支援教育・カウンセリング	生徒実態、症状の理解	4月25日(金) 15:40~16:30	養護教諭 カウンセラー
13	SSH活動、ユネスコスクール活動	活動の理解	4月28日(月) 15:40~16:30	各事務局

全職員に対しては、8月18日(月)に研修会を行うなど各種校内研修を充実させます。また、校外研修等への積極的な参加を促し、教職員それぞれが研鑽を積み自己の資質向上に励むことができるような環境作りに努めていきます。

1 1、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業

3学期に教員を対象とした「学校自己評価」を学校評価と自己評価の2種類に分け実施することを毎年計画しています。「学校自己評価」は教員自らが学校及び自己を評価し、学校全体としての現状を把握するとともに自己の研鑽に役立てていきます。また、学校関係者評価委員による外部評価を実施し、その結果を真摯に受け止め、健全な学校づくりに努めていきます。

より良い学校作りに向けて教員や学校が絶えず振り返りを続けていくことは、生徒や保護者のみならず、地域社会の信頼のもとに築かれる私学であるために特に重要であると捉えています。

1 2、令和7年度 中・高等学校 設備整備の事業計画

(単位:円)

事業名	事業費	実施時期
グラウンド整備	4,000,000	令和7年度中
校舎清掃	3,500,000	令和7年度中
ビル総合管理契約	2,300,000	令和7年度中
ガス空調機保守点検	2,000,000	令和7年度中
樹木剪定	2,200,000	令和7年度中
グラウンド排水路土砂撤去	2,200,000	令和7年度中
ガス空調機フィルター清掃	1,000,000	令和7年度中
通学路及び西グラウンド内舗装補修工事	15,000,000	令和7年度中
OA・IC教室パソコン等入替	42,760,000	令和7年度中
教職員パソコン入替	49,600,000	令和7年度中
Fortigate200F 2台入替	7,000,000	令和7年度中
合 計	131,560,000	